

世界での取組みと経緯

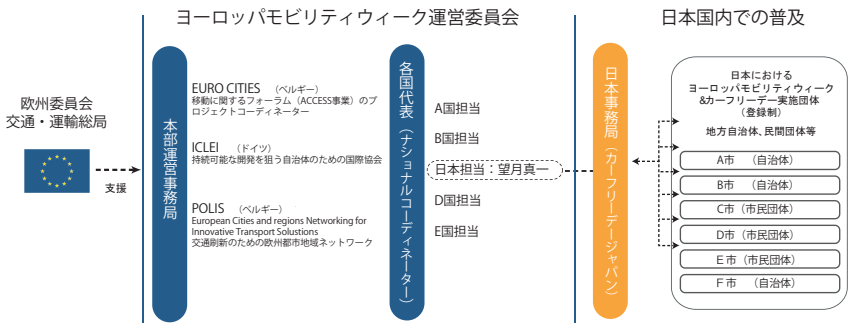
実施年	プロジェクト名称	参加都市数				海外
		カーフリーデー 参加都市数	カーフリーデー 実施都市数	カーフリーデー 参加都市数	カーフリーデー 実施都市数	
1997	車のない日	1	-	ラ・ロッシェル (仏)		
1998	街では車を走らせない日	34	-	フランス 34 都市		
1999	街では車を走らせない日	164	-	仏以外: イタリア2、ジュネーブ1		
2000	カーフリーデー	758	504	EUのプロジェクトとして世界に広まる		
2001	カーフリーデー	996	481	EU以外の参加都市が参加		

ヨーロッパモビリティウィーク
参加都市数 (2024)
2,766都市

実施年	参加都市数		海外	国内
	モビリティウィーク	カーフリーデー		
2002	320 (111)	1426 (316)	ヨーロッパモビリティウィークの開始	
2003	295 (428)	1035 (453)	アジアからも参加 (台湾)	
2004	377 (472)	1155 (240)	仏では施策の恒常化を迫る取組に変化。	愛媛都市3市が初参加。(横浜市・松本市・名古屋市)
2005	343 (497)	1108 (344)	仏「Bougez Autrement(これほどと異なる交通行動を)」に方向転換。施策の恒常化を前提とする交通通関へ。	愛媛都市5市参加。(国立市・横浜市・松本市・名古屋市・姫路市)
2006	1,321	1,311		愛媛都市3市が参加。(横浜市・松本市・名古屋市)
2007	2,020			6市が参加。(さいたま市・横浜市・松本市・名古屋市・福井市・那覇市)
	～			
2018	2,792		過去最多。(計54カ国参加) モンゴル、ペルー、南アフリカ共和国など初参加。	11市が参加。(仙台市・さいたま市・横浜市・松本市・金沢市・福井市・豊橋市・大阪市・京都市・奈良市・那覇市)
2019	3,135		過去最多。(計50カ国参加) イラン、ウズベキスタン初参加。	13市が参加。(仙台市・さいたま市・横浜市・逗子市・松本市・金沢市・福井市・豊橋市・大阪市・京都市・奈良市・福山市・那覇市)
2020	2,945		計53カ国参加。チリ初参加。	9市が参加。(横浜市・逗子市・松本市・金沢市・福井市・豊橋市・大阪市・奈良市・福山市)
2021	3,184		過去最多。(計53カ国参加)	9市が参加。(木更津市・横浜市・逗子市・金沢市・福井市・豊橋市・大阪市・福山市)
2022	2,989		計51カ国参加。コスタリカ、ナイジェリアが初参加。	7市が参加。(逗子市・金沢市・福井市・豊橋市・滋賀県日野町・大阪市・福山市)
2023	3,351		過去最多。計45カ国参加。	7市が参加。(逗子市・金沢市・福井市・豊橋市・滋賀県日野町・大阪市・福山市)
2024	2,766		計46カ国参加。	8市が参加。(東京都杉並区・逗子市・金沢市・福井市・豊橋市・滋賀県日野町・大阪市・福山市)



ヨーロッパモビリティウィーク&カーフリーデーの枠組み



※カーフリーデー・ジャパンは、ヨーロッパモビリティウィーク&カーフリーデーの日本での普及、啓発活動を担当する組織です

EUROPEAN MOBILITY WEEK

16-22 SEPTEMBER

一般社団法人
カーフリーデー・ジャパン

〒114-0014 北区田端2-4-19
tel 03-6914-3404

企業協賛のお願い
当活動・当団体は公的支援がないため、モビリティウィーク&カーフリーデーに賛同していただける企業・団体等からの協賛金を募集しております。

※「ヨーロッパモビリティウィーク&カーフリーデー」は商標登録です

ヨーロッパ
モビリティウィーク&カーフリーデー
人と環境にやさしい街を目指して



European Mobility Week & Car Free Day

ヨーロッパモビリティウィーク&カーフリーデー

▶ モビリティウィークの概要

ヨーロッパモビリティウィークは、市民と行政が一緒になって、まちでの移動、都市交通を切り口に、環境やまちを考えようという啓発週間です。毎年、9/16-22に実施され、世界2000都市近くが参加しています。

欧州委員会(交通・運輸総局)のプロジェクトで、2002年からはじまっています。それまでは、カーフリーデー(9/22)1日の取組みとして行われていましたが、モビリティウィーク1週間に拡大されました。しかしながら、依然として、カーフリーデーは、モビリティウィークの中心的イベントとして位置付けられ、最終日に実施されています。

ヨーロッパモビリティウィークは、**地方自治体**が実施誓約書にサインし、自治体や参加・協賛団体が出資をしてイベントを開催します。

ヨーロッパモビリティウィークでは、3つの主要な移動＝公共交通、自転車、徒歩をはじめとし、関連付けられる都市活動を1週間の活動トピックとし、毎年決められるテーマに従い、日替わりで、これらのキャンペーンを実施します。この数年は、自転車の利用促進が各都市の重要なテーマとなっています。

ヨーロッパモビリティウィークは、この活動を通じ、持続可能な都市交通・まちづくりに向けた、**①市民への啓発と②自治体の政策推進**の双方を目指しています。啓発にとどまらず、これを機にハード・ソフトともに自治体の政策展開まで行われている点特徴で、持続可能な都市交通の政策推進にむけた有効な手立てとして活用されています。

▶ 実施内容

ねらい	大気汚染の問題を認識する 公共交通を推進し強化する 人や自転車の空間を優先する 地域の資産を再認識する
-----	--

- ・持続可能な都市交通におけるイニシアティブを発揮する
- ・現在の都市市内での移動方法が与えた環境や生活の質についてのマイナスの影響を市民に理解させる
- ・地域住民、組織、商店街、企業等と協力関係を構築する
- ・ヨーロッパおよび世界の様々なまちや都市と共通の目標およびアイデンティティを共有するための幅広いキャンペーンを行う
- ・持続可能な都市交通に対する自治体の関与を強調する
- ・新しい交通政策・恒常的な施策に着手する

モビリティウィーク1週間(7日間)の活動トピック

- 1 公共交通・自転車・徒歩
- 2 モビリティマネジメント
- 3 賢い車の利用
- 4 賢く持続可能な余暇と買い物、地域経済を活性化するような移動手段
- 5 買い物(日常の買い物、商店街・商業者)
- 6 移動と健康
- 7 緑の道(自転車や徒歩などに移動手段を限定した環境や人にやさしいみちのこと)

▶ カーフリーデー(9/22)の概要

モビリティウィークの中心的イベント

カーフリーデーは、毎年、9/22に行われるヨーロッパモビリティウィークの中心的なイベントです。車を切り口に、都市、地球環境、都市文化を考えようというもので、一日、**くるまのない都市空間(道路空間)**をまちの中心部に創出します。

そこでは、車から解放された都市環境の変化(騒音、大気、にぎわいなど)を市民ひとりひとりが体験します。そうすることで、街では車に頼らなくても日常生活には支障がないことを実感することができます。

1997年からはじまった、ラ・ロッシュェル(仏)での「車のない日」が発端となっています。その翌年には、フランス環境省のイベント、2000年からは、欧州委員会のプロジェクトとなり、現在に至ります。

▶ 実施内容

カーフリーデーでは、普段は車に占拠されている都心部の特定地区内を、朝から夕方まで、マイカーの進入を規制して、一日、自転車、公共交通と共に、専ら歩行者専用の都市空間を創り出します。

マイカーに頼らなくても、地域住民がその影響を制約されることなく、都市内を楽しむことができるといことに気づいてもらうため、公共交通の増便(運賃は通常より割引もしくは無料)や、シャトル便で連絡させる駐車場の確保、相乗りの促進、レンタル自転車などが設置されます。

様々な団体が参加して、環境やまちづくりについて考えるキャンペーンや展示会なども行われ、新しい交通施策の導入の場ともなっています。

▶ 海外での取り組み

2002年の実施以来、ヨーロッパモビリティウィークの影響は、ヨーロッパを超え、世界中で確固たるものになっています。2022年は、2,989都市が参加し、そのうち、992都市で13,490に及ぶ都市交通についての恒常的施策がこれを機に導入されました。その主なものは、モビリティマネジメント、アクセシビリティ、自転車環境の整備、改善でした。

European Mobility Week Award

ヨーロッパモビリティウィークアワード2024 ボローニャ(イタリア)受賞!

ボローニャ(イタリア)は、モビリティウィーク期間中に、持続可能な都市モビリティ計画と公共空間の変革に関する様々な情報ブースや教育活動を開催しました。

多くの地元民間団体や市民団体がイベント企画に携わり、地域住民の主体的な意識の醸成に貢献しました。特に注目すべきは、ボローニャ30イニシアチブです。このイニシアチブでは、市内の道路の70%が、ゾーン30に恒久的に変更されました。最終日には、市内の歴史的・商業中心地でカーフリーデーが実施され、モビリティウィークが締めくくられました。



～車をおいて街へ出よう!～



カーフリーデー当日の様子(2006年)



カーフリーデー発祥の地 ラ・ロッシュェル



1997年9月9日、フランスのラ・ロッシュェルで、「車のない日」の社会実験が行われました。ラ・ロッシュェルは、大西洋岸に位置する都市圏人口135,000人の港湾都市で、古くから貿易の拠点、芸術・文化のまちとして栄えています。その一方で、環境の観点から、様々な都市交通政策を展開し、15年前から電気自動車の普及にも熱心な環境都市のパイオニアとして広く知られています。ラ・ロッシュェルにおける社会実験の成功がきっかけで、翌年にはフランスの環境省のイベントとして、さらに2000年からはE.U.のプロジェクトとして毎年9月22日に「街では車を使わない日」が実施されることになりました。2002年からは、モビリティウィークの中心的イベントとして、現在に至っています。

▶ 国内での取り組み

日本では、2004年から参加をはじめました。横浜市・松本市・名古屋市の3都市からスタートしましたが、今では毎年10都市以上が参加しています。市民ひとりひとりに、自動車に過度に依存した都市生活がもたらした問題を認識してもらい、個人の交通行動を変えていくための意識喚起が重要と考えています。公共交通の重要性をアピールし、街では車よりも、人・自転車・公共交通の優先の実現を目指しています。持続可能な都市交通政策の展開にむけて、また、日本でも深刻化する中心市街地への対応策としても、車と地球環境・都市生活のありかたを考えていきます。

なお、自治体主催が原則ですが、国内では、例外的に民間団体主催も認めています。

2024年は全国8市が参加しました!

東京都杉並区・逗子市・金沢市・福井市・豊橋市・滋賀県日野町・大阪市・福山市

モビリティウィーク&カーフリーデー日本アワード2019

まちづくり貢献賞
イベント・プロジェクト賞
市民向けアピール賞

モビリティウィーク&カーフリーデーなら実行委員会
さいたまカーフリーデー実行委員会
カーフリーデーふくい実行委員会



さいたま市



横浜市



奈良市

※新型コロナの影響を受け、2020年度より、アワードを開催していません